



### これは何でしょう



答えについての思い出などもお持ちしています。

- しめきり 2月14日(火)
  - あて先 〒783 南国市大浦申二二〇一 南国市企画課 親子クイズ係
  - 賞品 正解者の中から抽選で5人の方に図書券を進呈
  - ◎第23回親子クイズの答えは、たこでした。
- 第23回当選者発表(敬称略)  
(応募総数の通)
- おさきみわ (大浦)
  - 山本秀美 (十市)
  - 根岸陽子 (大浦)
  - 西山幸一郎 (大浦)
  - 松岡安希子 (緑ヶ丘)

### ☆思い出がいっぱい☆

◆幼いころ、自分たこを作って友達と遊んだことがあります。しかし、今は他人のたこ上げを見物するだけで、近ごろまったくとたこ上げをしません。このクイズを見て幼いころの思い出が、次々と思い出されました。なつかしいです。

◆小学校の低学年のころはやいとこたちと自分たちでたこを作りました。陣子紙に絵を書きまじりましたが、今はすいぶん絵柄も違います。今ではたこを上げる広い敷地も近づくに近づくに悲しいですね。

◆香長平野のど真ん中に家があるのので、風が吹きすさびて空でキラキラと落ちて、すぐ落ちてくる。それでも息子が孫に上げてくれるのを見るのにはいいものです。

◆今はたこ上げ大会でもないとなかなか上がっているたこを見ることはなくなりましたね。

◆私は二人姉妹でしたが、男の子が欲しかった父は、男の子のおもちやをよく買って来ては、父のほうで夢中になって遊んでいました。お正月も私たちが羽根つきをしているそばで、楽しそうにたこ上げをしていた姿を思い出します。



### みんなのひろば



### 広場



### われらサークル仲間



元日の物部川で恒例の寒稽古に励む南国市空手道連盟の皆さん。寒さを吹き飛ばす元気なかけ声が響きました。

空手は危険なスポーツと思われがちですが、近年、生活スポーツとして流派などを超え、安全なルールにのっとった競技として、アジア大会や国体でも正式競技となっています。

南国市空手道連盟は昭和43年に発足し、現在、十市体育会空手道教室と市民体育館の2か所で練習。女性9人を含む50人ほどが汗を流しています。県大会には毎年出場しており、小中学生の部も含め、上位入賞することもしばしば。国体に出場した人もいます。

理事長の野中雄二さんによると「一つのこと集中することで、心身の鍛錬をし、健康の維持・増進を図る。礼儀正しさを身につけ、社会に貢献できる人物を育てる」ことを目標に、ときには厳しく、ときには楽しく練習を続けています。

今から約四十年ほど前、ご主人と一緒にブラジルに移り住み、教職一筋に歩まれてきた兼松美代子さん。そんな兼松さんから、南国市の思い出、ブラジルでの様子などを聞いた手紙が届きました。

予鈴で家を飛び出し、本鈴に間に合おうと走りに行った一本道……彼方に田圃に囲まれた大窪小学校がぼつんと……

私は、今浦島の気持ちで繁華街の四つ角に立っています。

何という変わり様でしょう。

これほどまでに変わっているとは……

その名も南国……南国市。小学校一年生の二期の頃、旧制第一高女の二年生まで、私はこの地で育ちました。

大窪小学校は今言うモデル・スクールで小学五年生の時、竹井先生はモデル授業をなさいました。島田先生受け持の六年生の時は、健康優良児の一人に選ばれ、戦地の父

を喜ばし、それに知事公邸でのおもてなしの時、男生徒のためたすいとというストローの音やその場の雰囲気までが懐かしく思い出されます。また玉串を捧げたことや、右様代になったことなど……

こんな事もありました。

下校時、仲良しの友と二人で「おにやさんさいます。」

と道行く人に大声であいさつし、めんどくさな顔を見ては面白かったお茶目な日々。

史が当時のコロンビア社会また世界の動きとからみ合せて記録されています。因みにそのナザレの地に第一歩を印した日本人故下元健吉氏は高知県人なのです。

はずだと私たちは懸命です。

ここ南国市は私たちの町から見れば本当にうらやましいくらい行きどどいた整った思いやりのある町なのです。その南国市が二十一世紀を先取りする新たなビジョンかつの町づくりに励んでいられるその熱気がひしひしと感ぜられます。



なつかしい大窪小学校で。

一九五四年、親戚の移住員川正巳氏の呼び寄せで渡伯した私たちはサンパウロ州ナザレに住み、以後地域の教育に従事しております。

「ナザレ五十年史」が世に出たのは四年前で、これは、次の世代のために誰かがやらなければならない仕事だと、主人が精一杯書いて書き集めたものです。これを見ると、ナザレの日系人村の生成・発展の歴史

史が当時のコロンビア社会また世界の動きとからみ合せて記録されています。因みにそのナザレの地に第一歩を印した日本人故下元健吉氏は高知県人なのです。

まず、教会を建てた世帯民に比べて日本人(日系人)は第一に学校を建て文化協会を組織しました。日系人の人口は一アにも満たないのにサンパウロ総合大学の学生の三〇割は日系人なのです。

私の学校のあるアチバイア市はナザレの隣接地で人口約七万。周辺には日系人の村が波状的に連なっています。

そのアチバイア市に日系の副市長が誕生したのは数年前のことですが、「今に、日系人がこの市のトップの大部分をしめるのではないか」と言われるほど、日系人は信頼され、各界に活躍しております。

各国民がその持ち味を出し合って国づくりに励めば、上国ブラジルも憧れの国日本へ一歩近づけることが出来る



南国市の方をブラジルの話を